

平成17年第1回 ExTEND2005 作用・影響評価 検討会 議事要旨

日時：平成17年9月6日(木) 14:00~17:05

場所：霞山会館 松・竹の間

出席委員：遠山千春(座長)、齊藤昇二、菅谷芳雄、原彰彦

オブザーバー：

魚類試験実務者；井口泰泉(魚類試験実務者会議班長)、鑓迫典久、
横田弘文(関雅範の代理)

ほ乳類試験実務者；鈴木勝士(ほ乳類試験実務者会議班長)、青山博昭(敬称略)

事務局：上家環境安全課長他

議題：

1. 平成14年度及び平成15年度選定物質を対象とした試験の結果について
2. 平成17年度 ExTEND2005における試験対象物質選定について
3. ExTEND2005における各生物種を用いた試験実施・試験法開発について
4. その他

議事要旨

- (1) 平成14年度選定物質である、o,p'-DDTについて、メダカを用いたフルライフサイクル試験の結果、「魚類に対して内分泌かく乱作用を有することが推察された」が、環境中濃度と比較すると、現実的なリスクは低いという考察結果が示された。

【委員からの主な意見】

・化学物質の全体的なリスク評価はどの場で行うのか明確にすべき。

- (2) 平成15年度選定物質である、アルドリン、エンドリン、ディルドリン、ヘプタクロル、マイレックス、ケルセン、ベルメトリン、マラチオンについて、メダカを用いた試験及びラットを用いた試験の結果が報告された。ケルセンを除くいずれの物質については、今回の試験において、低用量(文献情報等により得られた人曝露量を考慮した比較的低用量)においては、明らかな内分泌かく乱作用は認められなかった。ケルセンについては、甲状腺の病理組織学的検査の結果を待って評価することとなった。

- (3) 平成17年度試験対象物質候補として、4-t-ブチルフェノール、ノニルフェノールジエトキシレート、ノニルフェノールモノエトキシレート及びノニルフェノキシ酢酸が提案された。

【委員からの主な意見】

・試験対象物質候補の選定プロセスには透明性及び客観性が必要。

- (4) ExTEND2005の下での、各生物種を用いた試験実施試験法開発・実施について今後の方向性について説明された。

魚類を用いた試験については、確定したスキームではなく物質に応じて試験法の組み合わせを検討していく。ほ乳類を用いた試験に関しては、ヒトが曝露する可能性のある低用量だけでなく、各種の毒性評価手法も参考とした用量設定を行う。

以上